

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 2月 1日

**【評価実施概要】**

事業所番号	0171300072		
法人名	メリーライフ株式会社		
事業所名	グループホーム 里の家大曲		
所在地	北広島市大曲緑ヶ丘1丁目2-2 (電話) 011-377-8373		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年3月24日

【情報提供票より】 (平成 21年12月1日事業所記入)

**(1) 組織概要**

開設年月日	平成13年 12月 20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 19人, 非常勤 5人, 常勤換算	21.3人

**(2) 建物概要**

建物構造	鉄骨構造S構造 造り		
	2階建ての	1~2	階部分

**(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)**

家賃(平均月額)	33,000~27,000円		光熱費 27,000円
			暖房費(11~4月) 9,000円
敷金	有(円)・○無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

**(4) 利用者の概要(12月1日現在)**

利用者人数	27 名	男性 9 名	女性 18 名
要介護1	6 名	要介護2	7 名
要介護3	8 名	要介護4	4 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 64 歳	最高 100 歳

**(5) 協力医療機関**

協力医療機関名	輪厚三愛病院、エスポワール北広島、清田整形外科病院、いなむら皮膚科医院
---------	-------------------------------------

**【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】**

平成13年に開設し8年が経過したグループホームです。管理者を中心に職員全員が良好な人間関係を基盤に、利用者本位の介護計画を作成し、生活支援を中心にした適切なチームケアの実践が行なわれています。職員は、評価項目の日常的な振り返りや掘り起こしを始め、運営法人の年間計画を基にした研修の積み重ねを通してスキルアップを図っています。行政・地域・家族との連携・協力関係は軌道に乗り、サービスの質の向上が図られています。職員の離職はほとんどなく、利用者と馴染の関係が保たれています。運営法人は法人内全ユニットによる食事コンテストを実施し、栄養バランスのとれた美味しい食事の提供に努めています。

**【重点項目への取組状況】**

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の課題は、災害対策に関する地域住民との連携です。運営推進会議において、災害時の協力体制について議題に上げ協力依頼を行なっていますが、両隣の枠を越えた地域周辺の協力体制については承諾がいただけず、継続しての検討課題としています。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	評価の意義について職員全員の理解を基に、項目毎に自己のケアについて振り返り、毎月の諸会議において、取り組みの事実と改善について話し合わせ、サービス向上に取り組んでいます。また、評価項目の振り返りなどの取組を通して、職員のスキルアップに効果を上げています。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議設置の主旨や方針を明確にし、地域・行政・家族代表などを構成メンバーに2ヵ月毎に開催しています。ホームの近況報告や運営を始め、地域・家族との交流・連携や自己・外部評価の取り組みと結果などについて話し合われています。会議の内容は職員全員に報告され、サービス向上に活かしています。また、構成メンバーは固定せず柔軟に対応し、幅広いメンバーによる建設的な意見収集を図っています。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 関係書類には、ホームと公的機関の苦情受付窓口を掲げ、苦情処理の手順や対応の流れなど、ホームの方針を明示しています。ホームの入り口には意見箱を設置し、運営法人には相談窓口の電話回線を設けています。また、何時でも言っただけの雰囲気作りを努めると共に、寄せられた意見や要望は記録に残し、検討し運営に反映しています。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、ゴロッケーやパークゴルフ大会・クリスマス会などの町内会行事に参加し、ホームの秋祭りには大勢の地域住民の方々を招くなど、双方向的な交流を深めています。また、老人会や詩吟のボランティアの受け入れ、保育園・絵手紙サークルなど、様々な交流を活発に行なっています。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域との関わりを重視する運営方針を基に、地域住民の方々との交流を進めています。18年度はこれまでの理念に「地域に愛せられ馴染みのある生活の継続」を加え、地域密着型サービスの役割を目指した内容の理念を作り上げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット会議や申し送り時には、理念の読み合わせや掘り下げを行ない、確認・共有を基に、チームケアの実践に取り組んでいます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ゴロッケーやパークゴルフ大会・クリスマス会などの町内会行事に参加しています。ホームの秋祭りには大勢の地域住民の方々を招き、双方向的な交流を深めています。また、老人会や保育園・絵手紙サークルなど、様々な交流が活発に行なわれています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員全員の理解を基に、各種会議で評価項目を議題に上げ、取り組みの事実と改善について話し合わせ、サービス向上に取り組んでいます。		

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議設置の主旨や方針を明確にし、地域・行政・家族代表などを構成メンバーに2ヵ月毎に開催しています。ホームの近況報告や運営を始め、地域・家族との交流・連携や評価の取り組みなどについて話し合われています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは、案件に応じて管理者と計画作成者・運営法人職員がそれぞれ対応し、ホームの現状や課題の共有を始め、相互に情報交流を行なうなど、良好な協働関係を構築しています。また、市主催の管理者会議も実態の共有の場になっています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子や心身の状況については、面会時や電話連絡により、その都度あるいは定期的に行なっています。また、写真満載の「里の家だより」を毎月発行し、ユニット単位の生活の様子などについて知らせると共に、出納帳・領収書も同封しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	関係書類には、ホームと公的機関の苦情受付窓口を掲げ、苦情処理の手順や対応の流れなど、ホームの方針を明示しています。ホーム入口には意見箱を設置し、運営法人には相談窓口の電話回線を設けています。また、何時でも言っただけの雰囲気作りに努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営法人職員・管理者・職員が相互に話し合える働きやすい環境作りに努め、離職を最小限に抑える取り組みを行なっています。また、やむを得ない退職に備え合同食事会に端を発し、ホーム内全ての職員と利用者の馴染みの関係作りを進めています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	評価項目の内容を掘り下げレポートを作成し、組織的な検討を経てホームに還元する研修を通して、職員のスキルアップに効果を上げています。また、年間計画を基にした法人内研修や職員の習熟度・経験に応じた職務研修を受ける機会を確保しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の管理者会議や北広島ネットワークのグループホーム部会・全国認知症グループホーム協会の研修会などに出席し、ケース検討会・ホーム見学などを行ない同業者の交流を深めています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の9割が病院からの入居者です。相談を受けた時点で管理者や計画作成者が訪問し、馴染みの関係作りとアセスメントを行っています。家族にはホーム見学を進め、利用者にとって安心と馴染める環境作りの協力をお願いしています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という意識を持たず、一緒に暮らす同志として喜怒哀楽を共にし、料理・裁縫・畑仕事などで利用者より教えをいただく場面を通し、共に過ごし支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日常生活の会話を通して思いや意向の把握に努めています。把握困難な場合は、表情や行動などから利用者本位に汲み取り、検討すると共に、家族や関係者から情報をいただいて確かな思いや意向を把握し、職員全員が共有しています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者による利用者の暮らしの意向や課題を基に、職員全員により意見交換やカンファレンスを経て担当者が纏め、計画作成者・管理者の指導を受け、利用者本位の介護計画を作成しています。作成後は家族の同意をいただくと共に、職員全員で確認・共有を図っています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎に全利用者を対象に定期的モニタリング・見直しを行なっています。状態変化や利用者・家族の要望があった場合は、組織的な検討を得て、現状に合った新たな介護計画を作成しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族・利用者の状況や要望に応じて、かかりつけ医や整骨院・理美容院・墓参り・町内会主催の各種スポーツ大会の送迎など、柔軟な自主サービスの支援を行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の協力医による2週間毎の往診やかかりつけ医の受診など、適切な健康管理が行なわれています。協力医とかかりつけ医は連携し、家族への連絡もその都度行なわれています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、家族・利用者にはホームの重度化に関する指針を基に説明し、同意書に署名・捺印をいただいています。状態変化に応じて管理者と家族は話し合いを持ち、具体的な対応が必要になった時点で、家族・医師・管理者により方針の統一を図り、支援に繋がっています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの性格に合わせた対応について職員間で話し合い、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。特に、日々の声掛けや記録など、個人情報の取り扱いの徹底を図っています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝など、利用者の状態や思いを尊重した個別性の支援を行い、その人らしい暮らしを提供しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し献立に取り入れると共に、季節を感じ取れる食材の利用に努めています。利用者の意志や気持ちを大切に、買物から食器拭きに至る一連の作業に能力に応じて参加していただいています。外食・居酒屋行事など「食」を楽しむ支援を行なっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や入浴時間帯は、利用者の生活歴・希望によりユニットで異なりますが、一人ひとりと相談しながら、入浴支援を行なっています。入浴を拒む場合は、声掛けやタイミングなどを工夫し対応しています。家族の入浴介助や銭湯利用も行なっています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の一連作業・郵便配達・カーテン開閉・洗濯物畳みなど、利用者の能力を発揮できる場面作りの支援を行なっています。また、室内ゲーム・地域行事の参加・ドライブなどの楽しみごとを利用者と相談しながら行なっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・菜園活動・近所の庭見学など日常的な外出の他、墓参り・パークゴルフ・釣り・温泉・演劇鑑賞などの個別性の高い外出や外食・ハイキング・イチゴ狩り・ドライブの外出行事など、戸外に出る機会を多くし、五感刺激が得られるよう支援しています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員は、施錠のない自由な暮らしの大切を理解していますが、ホームは交通量の多い道路に面しており、利用者の生命を守る使命感から家族の理解の基に施錠しています。職員間には、施錠緩和を図りたい意向があります。		

北広島市 グループホーム 里の家大曲

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導と防災コンサルタント支援による火災を想定した避難訓練を年2回行なっています。様々なケースを想定し訓練しており、運営推進会議において、地域住民の方々の協力がいただけるよう要請していますが、訓練時の連携が十分に図られていません。	○	運営推進会議を通して地域住民の方々への協力要請を行ない、消防署の指導の下で避難訓練を実施していますが、今後、地域防災の視点に立ち、地域と一体となった防災体制作りを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	運営法人は、法人内全ユニットによる「食事コンテスト」を実施し、栄養バランスを考え、彩や盛り付けを工夫した美味しい食事の提供に努めています。医師の血液検査による栄養摂取量を把握し、食事・水分の摂取量を記録し、必要量の摂取調整を行なっています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットは、構成や広さが異なり、特色を活かしたユニット作りが行なわれています。各ユニットは共に清潔保持に努め、生活感や季節感を取り入れ家庭的な雰囲気作りに努めています。1階の広いユニットは合同食事会場となり、管理者室は2つのユニットを繋ぐ生活空間にもなっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	8～9畳もある広く明るい居室には、家族の協力をいただいて、使い慣れた馴染みの家具を使い易く配置し、日常品や趣味の品を置き、思い出の写真や自作品を飾るなど、利用者にとって安心して居心地よく過ごせる居室になっています。		

※  は、重点項目。